

令和7年度学校評価（教育活動診断より）

12月に実施した「教育活動診断アンケート」へのご協力、ありがとうございました。今年度もGoogleフォーム等を活用し、子どもと保護者の両者に協力していただきました。2月20日に「学校運営協議会」を開催し、8名の委員の皆様とアンケートの分析（※）を行いました。

※分析については、教育活動診断アンケートの評価1（よくあてはまる）2（ややあてはまる）3（あまりあてはまらない）4（あてはまらない）とし、1と2を合わせた肯定的評価の数値を基に行っています。

全体的な傾向・特徴

（1）学校生活の充実

「学校は楽しい」は児童93%、保護

者90%と高い水準を維持しており、安心して学校生活を送れている児童が多いことが分かる。学校への満足感は安定しており、本校の教育活動の基盤の強さが表れている。【改善点】引き続き、児童が主体的に参加できる授業や行事の充実を図るとともに、一人一人のよさが認められる学級経営を推進し、全ての児童が「楽しい」と実感できる学校づくりを更に進めていく。

（2）学習（授業の分かりやすさ）

「授業は分かりやすい」は児童85%と高い肯定率を保っているものの、過年度と比較するとやや低下している。一方、保護者評価は70%で昨年度よりわずかに上昇しており、授業改善の取組は一定の成果を上げているといえる。【改善点】児童の実態に応じた指導方法の工夫や、見通しをもたせた授業展開、振り返り活動の充実を図り、「分かる・できる」を実感できる授業づくりを一層推進していく。

（3）相談活動・人間関係（質問内容変更を踏まえて）

今年度は相談に関する質問をより自分事として捉える内容に変更したため、「友達に相談できる」77%、「先生に相談できる」68%と数値は低下しているが、児童が具体的な場面を想起して回答した結果であり、実態をより正確に反映したものと考えられる。保護者評価は大きく変動しておらず、学校が相談できる場としての役割は概ね維持されている。【改善点】日常的な声かけや教育相談の充実、アンケートや面談等を通して児童の小さな変化を早期に把握するとともに、担任以外の教員、保護者、友達、地域の方…と、困っているときに相談できる人とのチャンネルをもてるようにする。親、教員、友達、地域の方…と誰でもよい。信頼でき、つながれる人との関係を増やし、育てていく。

（4）安心して過ごせる学校生活

「嫌なことを言われたり、されたりして長く悩むことはなかった」は児童63%、保護者71%で大きな変動はなく、全体として落ち着いた学校生活が維持されている様子がうかがえる。

【改善点】道徳教育や学級活動の充実を図り、互いを認め合う人間関係づくりを継続するとともに、いじめの未然防止と早期対応に組織的に取り組んでいく。

（5）あいさつ・社会性

「あいさつ」は学校内84%、学校外78%と概ね高い水準にあるが、昨年度よりやや低下が見られる。日常生活習慣としては定着しているものの、場面に応じた主体的なあいさつには伸びしろがある。【改善点】児童会活動や日常的な指導を通して、進んであいさつをする意識を高めるとともに、地域や家庭とも連携

質問項目		R7	R6	R5
①学校は楽しい。	児童	93%	94%	90%
	保護者	90%	87%	90%
④授業は、分かりやすい。	児童	85%	89%	91%
	保護者	70%	69%	75%

質問項目		R7	R6	R5
⑥困ったときに、友達に相談できる。	児童	77%	86%	86%
	保護者	67%	71%	80%
⑦困ったときに、先生に相談できる。	児童	68%	78%	80%
	保護者	70%	71%	76%
⑧嫌なことを言われたり、されたりしたことで長い間悩むようなことはなかった。	児童	63%	66%	67%
	保護者	71%	73%	76%

質問項目		R7	R6	R5
②学校では、あいさつが、よくできる。	児童	84%	91%	86%
	保護者			
③学校以外の場所でも、あいさつがよくできる。	児童	78%	83%	80%
	保護者	71%	71%	74%
⑩学校で、本をよく読んでいる。	児童	45%	63%	67%
	保護者			
⑪家で、本をよく読んでいる。	児童	51%	58%	63%
	保護者	38%	46%	47%

し、学校外でも実践できるあいさつ習慣の定着を図る。

(6) 読書習慣

「学校で本をよく読んでいる」45%、「家で本をよく読んでいる」51%と、継続して低下傾向が見られ、他の項目と比較して課題が明確に表れている。

【改善点】朝読書や図書館の活用、学級文庫の充実、読み聞かせ、本が読みたくなる仕組みづくり等を通して読書に親しむ機会を増やすとともに、家庭への啓発を行い、日常的な読書習慣の形成を図る。

(7) 家庭学習・宿題や提出物

「家庭学習の目安時間を守っている」は児童76%に対し保護者50%と認識の差が見られる。学習への意識はあるものの、家庭での学習の質や継続性に課題があることがうかがえる。また、「宿題や提出物を忘れない」は児童77%、保護者81%と安定しており、学習に向かう基盤は概ね整っている。

【改善点】家庭学習の内容や進め方を分かりやすく示し、学年に応じた具体的な課題提示や振り返りの工夫を行うことで、家庭と連携した学習習慣の定着を図る。また、見通しをもった課題提示やチェック体制の工夫を行い、児童が自ら計画的に学習や提出物に取り組める力を育てていく。

質問項目		R7	R6	R5
⑤宿題や提出物を忘れない。	児童	77%	81%	77%
	保護者	81%	84%	79%
⑫「ふこうずっ子の家庭学習」に書かれている学習時間の目安を守っている。	児童	76%	80%	78%
	保護者	50%	57%	58%

(8) 基本的な生活習慣

「早寝早起き」78%、「朝ごはんを食べて登校」94%と高い水準を維持しており、基本的な生活習慣は概ね定着していることが本校の強みである。【改善点】保健指導や学級指導、保護者への情報発信を通して、規則正しい生活の大切さを継続して啓発し、心身ともに健康な生活習慣の更なる定着を目指す。

質問項目		R7	R6	R5
⑬早寝早起きを守って健康な生活をしている。	児童	78%	83%	83%
	保護者	77%	77%	70%
⑭しっかり朝ごはんを守って健康な生活をしている。	児童	94%	93%	93%
	保護者	46%	53%	56%

(9) 自己有用感・自己肯定感

「自己有用感」については、児童81%と低下が見られるが、保護者79%は上昇している。児童が「進んで行く」という点をより具体的に自己評価した結果、実態に近い数値が表れたと考えられる。家庭では役割を果たそうとする姿が一定程度認められている。「自己肯定感」については、児童87%とやや低下したが、依然高い水準である。多くの児童が努力の価値を感じていることが分かる。保護者76%も安定している。

【改善点】係活動や当番活動などで「人の役に立っている実感」をもたせ、よい行動を積極的に価値付けることで、主体性と自己有用感を高めていく。また、目標設定や振り返りを充実させ、努力の過程を認める指導を継続することで、達成感や挑戦する意欲を更に高めていく。

(10) その他 ※保護者質問で高評価をいただいた項目です。

質問項目	R7	R6	R5
⑫学校の教職員は、児童や保護者に誠意をもって接している。	90%	89%	91%
⑮学校は、通信やホームページ、授業参観や行事等を通して、学校の方針や児童の様子がよく分かるよう広報し、開かれた学校づくりに努めている。	86%	86%	83%
⑯学校は、地域と連携し、積極的に地震災害に対する防災教育に取り組んでいる。	88%	84%	81%
⑰学校は、安全・安心な環境の整備に努めている。	91%	89%	87%

今後に向けて

紙面の都合上、全ての項目について紹介はできておりませんがご了承ください。ご協力ありがとうございました。この内容は、学校HPにも掲載しています。

総じて、本年度は学校生活の満足度や基本的な生活習慣が高水準で安定している一方、質問内容を自分事として捉える形式に変更した相談活動などに実態がより具体的に表れた結果となった。今後は、安心できる人間関係づくりと主体的な学びの充実を柱に、教育活動の更なる改善を図っていきます。